

第21回長野県支部学術集会

学術集会会長：諏訪赤十字病院病院長 梶川昌二

2024年5月18日(土)岡谷市ライブプラザマリオにおきまして、第21回長野県支部学術集会を開催しました。今



会場風景

回のテーマを「ポストコロナにおける地域医療構想」とし、250名のご参加をいただきました。

基調講演は、長野県支部長・相澤東病院病院長の宮田和信先生に「コロナ後の地域医療連携体制は？」、特別講演では、一般社団法人日本血液製剤機構事業本部事業戦略部主席の谷澤正明先生に「令和6年度の診療報酬改定 対応のポイント ～働き方改革元年 医療DX改定をいかに対応するか～」、招聘講演では、社会福祉法人日本医療伝道会衣笠病院グループ理事・よこすか地域包括ケア推進センター長の武藤正樹先生に「2024年診療報酬改定 ～高齢者救急をどこで診る？～」についてご講演を賜りました。一般演題は19題の発表があり、盛会のうちに終了することができました。

本学術集会を開催するにあたり、ご支援ご協力を賜りました関係各位の皆さまに心より感謝を申し上げ、開催のご報告とさせていただきます。

分科会開催案内

2024年度医療安全分科会(Web開催)

テーマ：医療安全を支える人の活動

医療機関において完璧な医療安全管理は不可能です。医療の様々な場面で人が介在するからです。リスクがゼロになるということはありません。そうした中で、先人たちが築いてきた医療安全管理体制や医療事故防止対策に学びながら、日々変化する社会や現場に対応し、継続的に医療安全管理活動に取り組んでいくことが重要です。テクノロジーも進化しています。ICTやIoTを大いに活用しながら、最終的に医療の安全を守るのは私たち医療職であるということを忘れないようにしたいものです。

そこで本分科会では、医療安全をとりまく人に注目

し、テーマを「医療安全を支える人の活動」としました。具体的には、インシデント報告のデータ活用や、医療対話推進者との協働効果、新任医療安全管理者が活動スタイルを築くまでの奮闘、医療事故を起こしたスタッフへの対応等、決して新しいテーマではありませんが、日々悩みながら医療安全に尽力する皆さまにとってヒントや気づきを得る機会になると考えております。

新任あるいは経験のある医療安全管理者の皆さんも、ぜひ、ふるってご参加ください。

なお、本プログラムをすべて受講された方に参加証明書を発行します。定員が限られておりますので、ぜひお早めに申込みをお願い申し上げます。

・日時 2025年1月11日(土) 8:15～16:00

・場所 Web開催(Zoomを利用)

・プログラム

8:15 受付開始

9:00～9:05 開会

日本医療マネジメント学会理事長 宮崎久義

9:05～10:00

基調講演「医療安全の動向：厚生労働省医療安全推進・医務指導室から」

厚生労働省医政局地域医療計画課 医療安全推進・

医務指導室 医療安全対策専門官 植田瑛子

10:00～11:00

講演1「医療安全のデータ活用をどういかにするか」

山梨大学大学院総合研究部医学域 臨床医学系

(附属病院 病院経営管理部)特任教授 小林美亜

11:00～12:00

講演2「医療安全に対話推進者をどう活用しているか～稲葉弁護士の視点から」

東京医療保健大学大学院医療保健学研究科助教

本谷園子

12:00～13:00 昼食

13:00～14:00

講演3「医療安全管理者としての成功体験」

公益財団法人ときわ会常磐病院医療安全管理部

仲本広世

14:00～15:00

講演4「事故を起こした職員への対応をどうしているか」

いなば法律事務所代表弁護士 稲葉一人